



2025年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2025年2月5日

上場会社名 株式会社 テクノメディカ
コード番号 6678 URL <https://www.TechnoMedica.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 實吉 政知

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長 (氏名) 中原 志郎

TEL 045-948-1961

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の業績(2024年4月1日～2024年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	6,447	0.4	584	37.0	589	37.2	426	34.0
2024年3月期第3四半期	6,424	6.0	928	12.6	937	13.0	646	14.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	61.66	
2024年3月期第3四半期	80.04	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	16,443	13,811	84.0
2024年3月期	17,433	13,818	79.3

(参考)自己資本 2025年3月期第3四半期 13,811百万円 2024年3月期 13,818百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		68.00	68.00
2025年3月期		0.00			
2025年3月期(予想)				68.00	68.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	2.8	1,400	23.9	1,400	25.2	970	28.0	124.44

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	8,760,000 株	2024年3月期	8,760,000 株
期末自己株式数	2025年3月期3Q	1,830,012 株	2024年3月期	1,846,962 株
期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	6,923,108 株	2024年3月期3Q	8,076,062 株

添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有(任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 経営成績等の概況(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6

[独立監査人の四半期財務諸表に対する期中レビュー報告書]

巻末

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間における世界経済は、欧米を中心とした各国の金融引き締めにより、インフレの進行に一定の落ち着きが見られたものの、依然として地政学的リスクやサプライチェーンの不安定などにより、不確実性の高い状態で推移しました。国内経済においては、全体として緩やかな景気回復基調を維持した一方、物流コストや人件費の増加により物価上昇圧力が続く厳しい経営環境の中で、先行きに予断を許さない状態が続きました。

医療機器業界におきましては、2024年4月より開始した医師の時間外・休日労働の上限規制によって、医療現場の環境が大きな変革を迫られる中で、業務効率化に寄与するサービスの提供が一層重要となっております。

このような経営環境の中で当社は、主力製品である採血管準備装置および関連システムにおいては、卓上タイプの小型機から大規模施設向けの大型機まで多様な製品ラインアップを取り揃え、施設ごとに最適なソリューションの提供を図ってまいりました。検体検査装置に関しても、顧客のニーズに応じてハンディ型、デスクトップ型など各種製品の拡販に努め、消耗品等については、原材料費の高騰による影響が続く中で、引き続き安定供給に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は6,447,258千円(前年同期比0.4%増加)となりました。第2四半期に引き続き、海外市場における採血管準備装置・システムの売上が前年同期を上回ったことに加えて、国内外ともに消耗品等の底堅い需要が下支えとなり、前年同期を上回りました。なお、総売上高に対する海外売上高の占める割合は、前年同期比5.4ポイント増加し16.9%となりました。

利益面に関しては、売上高の増加に伴い、売上総利益が3,243,848千円(前年同期比0.5%増加)となりました。販売費及び一般管理費は、採血管準備装置・システムに係る研究開発費や人件費の増加等により、2,659,310千円(前年同期比15.6%増加)となり、営業利益は584,538千円(前年同期比37.0%減少)、経常利益は589,078千円(前年同期比37.2%減少)、四半期純利益は426,852千円(前年同期比34.0%減少)となりました。

<品目別の販売状況>

・採血管準備装置・システム

当第3四半期累計期間における採血管準備装置・システムの売上高は1,850,085千円(前年同期比10.3%減少)となりました。国内市場においては、第2四半期と同様、大規模施設向けの機器・システムの販売案件の一部が前事業年度に前倒しになった影響により、売上高は1,541,161千円(前年同期比21.3%減少)となった一方、海外市場においては、主に東南アジアおよび中国市場における販売案件が伸長し、売上高は308,923千円(前年同期比193.8%増加)となりました。

・検体検査装置

当第3四半期累計期間における検体検査装置の売上高は445,750千円(前年同期比2.5%減少)となりました。国内市場では、競合他社との競争も続く中、各種の分析装置の売上が前年同期を下回り、売上高は247,545千円(前年同期比14.8%減少)となりましたが、海外市場においては、中南米やアジア地域でデスクトップ型血液ガス分析装置の販売が伸長したことにより、198,204千円(前年同期比18.7%増加)となりました。

・消耗品等

当第3四半期累計期間における消耗品等の売上高は4,151,422千円(前年同期比6.3%増加)となりました。国内・海外市場ともに安定した需要が続き、国内市場での売上高は3,571,233千円(前年同期比3.9%増加)、海外市場での売上高は、機器の売上の増加に伴い580,188千円(前年同期比24.0%増加)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末の総資産の残高は16,443,941千円となり、前事業年度末比989,932千円減少しました。これは主に、現金及び預金が362,702千円増加、商品及び製品が344,942千円増加した一方、売掛金が1,484,015千円減少、電子記録債権が284,535千円減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末の負債の残高は2,632,608千円となり、前事業年度末比982,677千円減少しました。これは主に、買掛金が466,867千円減少、未払法人税等が319,253千円減少、未払金が245,267千円減少した一方、前受金が186,145千円増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末の純資産の残高は13,811,333千円となり、前事業年度末比7,255千円減少しました。これは、配当金の支払いが470,144千円、自己株式の減少42,697千円があったほか、四半期純利益が426,852千円であったことによるものであります。なお、自己資本比率は84.0%となり、前事業年度末比4.7ポイント増加しました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年5月9日付の2024年3月期決算短信で発表した2025年3月期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,586,360	8,949,062
受取手形	56,013	17,349
電子記録債権	757,670	473,135
売掛金	3,483,775	1,999,759
商品及び製品	1,853,507	2,198,450
仕掛品	116,084	130,292
原材料及び貯蔵品	185,396	192,315
前払費用	36,669	53,404
未収消費税等	-	67,347
その他	5,970	161,734
流動資産合計	15,081,448	14,242,851
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,265,594	1,265,594
減価償却累計額	△756,414	△786,011
建物(純額)	509,179	479,583
構築物	5,042	5,042
減価償却累計額	△2,625	△2,733
構築物(純額)	2,416	2,309
機械及び装置	347,519	354,269
減価償却累計額	△253,452	△267,488
機械及び装置(純額)	94,066	86,780
工具、器具及び備品	331,875	335,293
減価償却累計額	△276,637	△293,584
工具、器具及び備品(純額)	55,238	41,709
土地	787,326	787,326
建設仮勘定	412	8,797
有形固定資産合計	1,448,640	1,406,506
無形固定資産		
電話加入権	1,177	1,177
特許権	636	462
ソフトウェア	69,504	56,234
ソフトウェア仮勘定	-	5,000
無形固定資産合計	71,318	62,875
投資その他の資産		
出資金	7,510	7,510
長期前払費用	299,245	240,635
繰延税金資産	422,969	383,148
その他	128,116	125,789
貸倒引当金	△25,374	△25,374
投資その他の資産合計	832,466	731,708
固定資産合計	2,352,426	2,201,090
資産合計	17,433,874	16,443,941

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,415,497	948,630
未払金	331,047	85,780
未払費用	92,179	109,703
未払法人税等	319,253	-
未払消費税等	128,576	-
前受金	762,908	949,053
預り金	10,061	42,214
前受収益	96,018	132,952
賞与引当金	181,826	93,000
役員賞与引当金	20,250	-
その他	1,779	1,940
流動負債合計	3,359,397	2,363,274
固定負債		
退職給付引当金	220,265	234,182
製品保証引当金	24	5
その他	35,598	35,145
固定負債合計	255,888	269,334
負債合計	3,615,285	2,632,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,069,800	1,069,800
資本剰余金	1,002,823	996,162
利益剰余金	15,730,645	15,687,353
自己株式	△3,984,680	△3,941,983
株主資本合計	13,818,588	13,811,333
純資産合計	13,818,588	13,811,333
負債純資産合計	17,433,874	16,443,941

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	6,424,175	6,447,258
売上原価	3,195,179	3,203,409
売上総利益	3,228,995	3,243,848
販売費及び一般管理費	2,300,961	2,659,310
営業利益	928,034	584,538
営業外収益		
受取利息	167	821
受取配当金	0	0
為替差益	751	-
受取賃貸料	5,618	6,975
その他	3,291	1,590
営業外収益合計	9,828	9,387
営業外費用		
為替差損	-	4,844
その他	-	2
営業外費用合計	-	4,847
経常利益	937,863	589,078
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税引前四半期純利益	937,862	589,078
法人税、住民税及び事業税	264,225	122,404
法人税等調整額	27,262	39,820
法人税等合計	291,488	162,225
四半期純利益	646,374	426,852

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	82,994千円	74,129千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自2023年4月1日 至2023年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自2024年4月1日 至2024年12月31日)

当社は、医療機器及びこれら装置で使用する消耗品の製造、販売を主たる事業とする単一セグメントであるため、セグメント情報は作成しておりません。

独立監査人の四半期財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年2月3日

株式会社テクノメディカ

取締役会 御中

監査法人シドニー

横浜事務所

指定社員 公認会計士 政近 克幸
業務執行社員

指定社員 公認会計士 沢田石 吉英
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社テクノメディカの2024年4月1日から2025年3月31日までの第38期事業年度の第3四半期会計期間（2024年10月1日から2024年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（2024年4月1日から2024年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、

職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。